PTR600RC ご使用にあたってのよくある質問

ご使用中の方へ

PTR600RCについて、お客様からよく寄せられるご質問と その答えをご紹介いたします。機能や活用方法に加えて、利用 中のトラブル解決の方法などについてもご案内しています。 お問い合わせの前に、ご参照いただければ幸いです。





PTR600RC動画(※開始46秒より) → https://youtu.be/bUw7dqgzfxM



電源が入らない/探索が不安定になる/信号が届かない/受信機の音が鳴り続ける

電池不足の可能性がございます。充電もしくは電池交換をしてください。 📘 ※音が変わる場合は強感度の場合ノイズの可能性もあります。



音が鳴らない/全て音が鳴る

アースを取ってますか?単独のアースを取って頂くとより分かりやすくなります。

アースが取れない環境の時はどうすればいいの?

・アースを取らなくても信号は送信できますが送信出力が非常に弱くなります。筐体アースでも対 3 応可能ですが、できるだけ質の良い単独アースのご利用が性能向上に繋がります。

※単独アース:RSTのS相をアースとして代用することはR相S相間で電磁パルスが相殺し合う為、 どのような場合においても二線間への信号送信はおすすめしません。この場合単独アースとは 鉄筋・鉄製階段・フェンスあるいはアース棒による配線路とは分離したアースのことを示します。

Q4 探索中に音が無くなった場合は?

「強」または「弱」ボタンを再度押すことによりリセットがかかり、最大感度で探索を続行できます。 🛂 (最大感度で探索を開始します)



探索時受信が不明瞭になった/目的線以外も反応する/ノイズの影響が強い場合は?



① 必ず送信用アダプタリードを使用して、単独のアースを別回路で取ってください。 〈アース例〉盤内アース・鉄筋・ダクト・水道管など

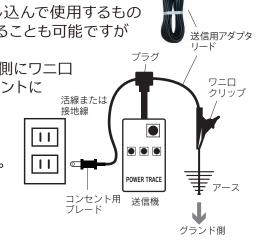
・2線に直接信号を送信すると送信信号が弱くなるためおすすめしません。

・送信機のプラグは基本的にはそのままコンセントに差し込んで使用するもの ではありません。(送信機のプラグを差し込み信号を送ることも可能ですが 信号が弱くなる事が想定されます。)

送信用アダプタリードに送信機のプラグを差し込み、片側にワニロ クリップ、もう片側にブレードをそれぞれ装着し、コンセントに 対応するブレーカーの探索準備を行って下さい。

① 正しい方法でスキャン出来ているかご確認下さい。

受信機に覚え込ませるように数回スキャンしてください。



Q 漏電ブレーカーが心配な場合は?

A 漏電ブレーカーが許容値は状況によって異なりますが、送信機から対地面に8mAの電流が流れ ることがあります。ご心配の場合はニュートラ線またはグランド線に接続下さい。但しこの場合は 盤内アース以外の単独アースをご利用下さい。

2 目的のケーブル以外の箇所で反応してしまう・・・なぜ?

電力線や通信線、インバーター回路などから発せられる外来ノイズに反応している可能性があります。ノイズと受信信号の見分け方はノイズは連続音や不安定な断続音ですが、信号受信した際の受信音は「ピピピッ、ピピピッ、ピピピッ(活線時はピピッ、ピピッ、ピピッ)」と3回ずつ(2回ずつ)規則正しく鳴ります。

Q 目的線の端末をループや地絡する必要はあるの?電圧供給の必要性は?

🖴 🖁 端末の加工や電圧の供給は一切必要ありません。端末の開放・短絡・機器接続状態で探索できます。

[ǥ 探しているケーブルがコモン線の場合は?

→ マルチ回線(分岐の多い回線)の分岐箇所や端末検出も行うことができます。

PC-6のクランプの使用で送信ができない?



- ・ケーブルの末端から2m以内の場合にはクランプで信号送信ができません。(オープン回路の場合) 短いケーブル側にアース接続して下さい。
- ・クランプの口が完全に閉じているかご確認下さい。
- ・発信機本体の電池を充電または交換して下さい。※クランプの使用時は消費電力が多くなります。 ※PC-6クランプの使用方法や注意点については取扱説明書をご参照ください。

2 他に便利なオプションは?

A ブレーカー、ケーブル探索に必要なすべての装備が標準でセットですが、他に便利なオプションも ございます。

非接触送信クランプ 33mm〈PC-33〉

複数または太いケーブルを探索する場合や直接信号を送れないデータ回線でも安全・簡単に送信することができます。※電池不要

先端プローブ〈PT-1〉

細いケーブルや多数の端子の中から目的線を探索し やすくする導電樹脂製の先端プローブです。







◎その他のご不明点がございましたら下記までお問い合わせください。



〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東2-3-3 フリーダイヤル: **0120-26-5527**

PTR600RC をより便利にお使いいただくために

PTR600は発売以来15年以上になりますが、正しい使用方法をご理解の上お取り扱いいただくと、非常に便利です。ご安心してご利用ください。 尚、次の項目は特に重要な使用方法となりますので、ご留意のほどお願い申し上げます。



ポイント 1

送信機のコンセント用のプラグは決してそのままコンセントに差し込んで使用するものではありません。 解決法:必ずワニロクリップのついた2mのコードにプラグを差し込み、片側にワニロクリップを装着し、 もう片側はブレードを差し込みコンセントに対応するブレーカーの探索準備を行います。

ポイント 2

ワニロクリップをアースに接続し、コンセントブレードをコンセントの活線またはニュートラルに差し込みます。(アースがしっかりしていれば活線の場合、送信機の活線LEDが点灯します。(耐圧はAC600Vで無電圧線にも使用可能です。送信機のスイッチを一回押し、送信を開始します。受信機でブレーカーを探索する際にまず弱のボタンを押し、ブレーカーの端子に接続されている白(ニュートラ)または黒(活線)のケーブル上を受信機の弱の状態のまま順番に受信機のLEDが強く光るブレーカーを探索します。

ポイント 3

受信機は一番強い信号をキャッチしたときにそれ以下の信号は反応しなくなるピークホールド機能を保持します。従いまして、めぼしのついた白または黒の線においても再度弱のボタンを押し、最後に残る線のみがコンセントに対応したブレーカーまたは端子ケーブル(活線またはニュートラ)となります。

ポイント 4

強ボタンは弱と同じ機能のピークホールドを保持しますが、ケーブルから距離のある場合(天井裏)、またはたくさんの分電盤の中から扉を開けずに最寄りの分電盤を見つける際、もしくは地中埋設時に使用することをおすすめします。

ポイント 5

重要:ケーブルルートを探索する場合、ほとんどの場合送信機から順繰りにルートを探索しますが、重要なことは送信機から約5mあたりの地点で弱ボタンを数回押してルートが確認できた場合、そのままの状態ではたとえばその先の10m地点では信号が相対的に弱くなるため、受信機は反応しなくなることが想定されます。従いまして、必ず強または弱のボタンを押してピピっという信号音があることを何度か確認する必要があります。

その他ご不明な点がございましたら、弊社の技術スタッフが、ご説明させていただくことも可能です。弊社のホームページにも動画で取扱説明をご覧いただけますので、あわせてご利用ください。



▼ PTR600RC 動画は こちらから

〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東2-3-3 フリーダイヤル: **0120-26-5527**